佛蘭西政
今上候巻
一

1621

15

114
A2790
1

佛蘭西政令上帙卷之一

緒論

政法ノ大旨

政法ノ關スル所ニ法アリ一ハ民間ノ通法一ハ邦國ノ公法ナリ民間ノ通法ハ即チ人民相共ニ交通スルノ道ヲ規定スル者ニシテ其大綱トスル所ハ一家親族相與スルノ交義（各自ノ權利及義務ヲ兼）及各人家産ヲ通用スルノ方法ナリ邦國ノ公法モ亦二種アリ一ハ君民ノ關渉一ハ

大正十一年四月
大隈侯爵邸寄贈

諸國ノ交際ナリ君民ノ關渉ヲ内公法ト云ヒ諸國ノ交際ヲ外公法ト云フ即チ萬國交道也

内公法ノ大旨左ノ如シ

第一國民ノ主權ヲ行フニ必ス遵守スヘキノ規則所設ノ諸官ノ制度及ヒ職掌一國ヲ支配スルカ爲メニ設クル所ノ國政ノ原則是等ヲ名ツケテ公法ト云フ即チ建國ノ法ナリ

第二建國法ニ掲載スル原則ヲ擴充シテ一般ノ利益ヲ滿足セシムルカ爲メニ諸官ヨリ出ス所ノ法令及ヒ其他ノ文書ヲ名ツケテ政法ト云フ

内公法ノ両項ハ互ニ相左右ス故ニ有名ナル「ロレー」人名ハ建國法ハ政法ノ頭腦トナルモノト云ヘリ實ニ建國法ハ政府ノ根源ヲ立テ政法ハ其支派ヲ導キテ事ニ施ス者ナリ

建國法ハ此篇ノ要領ニ非スト雖モ然レモ政法ニ於テ關スル所尤切近ナリ故亦畧説セサルヘカラス

建國法

建國法ハ一國民ノ組立ノ原則トナルモノニシテ其大畧人間ノ権利ヲ布令スルニノヽ類ナリ

故ニ其定ムル所ノ條件左ノ如シ

第一根源ノ権利即チ世界ニ生活スル人間ノ開化ニ於テ闕ク可カラサルモノナルヲ以テ人々ニ保證スルモノナリ

第二國民ノ主権ヲ行フニ於テ必ス遵守ス可キノ規則ト政権ヲ行フニ於テ亦必ス遵守ス可キノ約束諸官ノ設立及ヒ職掌等是即チ建國法ナリ

民権ヲ満足セシムルハ本旨ニシテ政事ノ組立ハ即チ其方法ナリ蓋シ邦國ハ民ヲ以テ成立スルモノナレハ一國ヲ見テ一箇ノ人ト為シテ可ナリ

建國法ハ通例「シヤルト」或ハ「コンステチューシヨンシヤルト」ト名ツクル書冊ニ記載スル所ノ國ヲ支配スルノ原則ナリ

シヤルト或ハコンステチューション」ヲ又パックトヲンダマンタル（原盟）トモ云ヒ即チ一國民ノ盟約ノ基本人民ニ許可シタル根源ノ権利及ヒ一國政府ノ規則ヲ記載スルモノナリ

千七百八十九年以来佛蘭西ニ國法ノ畧記

共和政治紀元千七百九十二年三月

千七百八十九年以来屢革命アルヲ以テ建國モ亦種々ノ法ヲ立タリ然レモ其法皆制法行法ノ両権ヲ分ツヲ以テ大本ト為セリ其大體左ノ如シ

第一千七百九十一年九月三日ノ建國法ハ制法権ヲ一ノ議院ニ托シ行法権ヲ王ニ托セリ

第二千七百九十三年六月廿四日ノ建國法ハ制法官ニテ創立シタル法律ニ就キ論定スルノ権ヲ人民ニ帰シ而シテ行法権ハ制法官ヨリ命シタル廿四人ノ公會ニ托セリ第二年共和政治紀元ニ於テ

一ノ國會ヲ建ツ此國會ニ於テ安全ノ公會幸福ノ公會ト名ツクル両公會ヲ設ケ以テ諸権ヲ兼併セリ

第三第三年結果月五日ノ建國法ハ制法権ヲ五百人ノ議院ト長老院トニテ分有シ行法権ハ五人ノ主宰職ニ托セリ主宰職ハ五百人ノ院ニ於テ書出セル仕進ヲ求ムル人ノ姓名簿中ニ取リ長老院ニテ命スル所ノモノナリ

第四第八年霜月廿二日ノ建國法ハコンシュル職ヲ立タリ此建國法ハ大將ボナパルトノ一舉ノ

後ニ決定シタル者ニシテ即チ千八百五十一年二月二日ノ一舉以来現今ニ至ルマテ設クル所ノ建國法ノ準據トナル者ナリ

行法權ハ十年任ノ「コンシュル」三人ニ帰シ其中ニ特別ノ免許ヲ第一ノ「コンシュル」タル大將ボナパルトニ與ヘタリ

制法權ハ國ノ主宰國議院「ティリビュナー」制法官及上院ニ分有セリ主宰ハ法案ヲ立ルノ權アリ國議院ハ法案ヲ校定スルニ任シ「ティリビュナー」ハ其事ヲ討論シテ已レノ意見ヲ述フ制法官下院ハ國議院及ヒ「ティリビュナー」ノ辯論者ノ說ヲ聞タル後此法案ヲ取捨ス上院ハ其事ノ建國法ニ違フアル時ハ此法案ヲ廢棄スルノ任ヲ受ケタリ

上院ノ人員ハ上院自ラ撰フモノニシテ其仕方ハ制法官「ティリビュナー」一等「コンシュル」ヨリ仕進ヲ求ル人ノ姓名簿ヲ以テ各三人ツヽヲ出シ上院ニ於テ此三人ノ中各一人ヲ舉クルナリ制法官ノ員「廢リビュナー」ノ員及ヒ「コンシュル」ハ上院ニテ撰舉ス

第十年炎月十六日ノセナテスコンシュルト」ヲ以

テ建国法ノ个條ヲ改ムルトキニ出ス布令書ナリコンシュル職ヲ終身ノ職トナシ又一等コンシュルニ免許ヲ加増シタリ」

第十二年花月サ八日ノ「セナテスコンシュルト」ヲ以テ第一等コンシュルヲ立テ、「ナポレオン一世」ノ名ヲ以テ帝トナシ世襲ノ帝國ヲ興セリ而メ帝ハ上院ヲ組立ルノ任ヲ受タリ千八百七年八月十九日ノセナテスコンシュルトヲ以テ「ティリビュナーレ」ヲ廃シ其職ヲ制法官三課ノ委員ニ托セリ」

第五千八百十四年六月四日ルヰ十八世ノ建國法ハ行法権ヲ王ニ帰シ制法権ヲ王及ヒ上下両院ニ分有ス法ヲ創立スルノ権ト法ヲ許可スルノ権ハ王ニ帰シ法ヲ論シ及ヒ次テ投票スルノ権ハ上下両院ニ帰ス上院ノ官員ハ王ヨリ命ス而ノ其職ハ終身或ハ世襲ナリ下院ノ官員ハ年齢三十歳ニシテ直税三百フランクヲ出セル撰挙人ヨリ命スルモノニシテ年齢四十歳直税千フランクヲ出ス者其撰ニ充ツ

此建國法ハ一世「ナポレヨン」エルブ島ヨリ復帰ノ後千八百十五年四月廿二日帝國ノ建國法ニ加ヘル布令書ヲ以テ暫時此法ヲ變換セリ

第六千八百三十年ノ建國法ハ八月七日上下両院ニテ之ヲ投票シ同九日新王ルヰーヒリップ之ヲ領承シ十四日之レヲ各所ニ頒布ス此建國法ハ國ノ代人先ツ之レヲ投票シ王権ヲ與ヘタルオレアンス侯即チ新王ルヰーヒリップ之ヲ領承スルモノニシテ「ルヰー十八世ノ建國法ノ如ク王ノ免許ヲ受クルモノニアラス蓋千八百十四年ルヰー十八世ノ建國法ハ神聖正統ノ権利ニ基キタルモノナリ千八百三十年ノ建國法ハ自主ノ権ト民ノ主権ニ基キタルモノナリ故ニ此法ハ代人ヲ立メタル國民ト王権ヲ托サレタル王トノ両間ニ設ケタル最公平ナル盟約ト云フヘシ

千八百三十年ノ建國法ハ行法権ヲ王ニ托シ制法権ヲ王ト上下両院トニ分有セリ法ヲ創立スルノ権ハ王及ヒ上下両院ニアリテ法ヲ許可シ及頒布スルノ権ハ王ノミニアリ上院ノ員ハ貴族ノ中ニ撰ヒ王ヨリ之ヲ命シテ終身ノ職トナス下院ノ員ハ年齢二十五歳ニテ直税二百フランクヲ納ル所ノ撰舉人之ヲ撰ヒ年齢三十歳ニ

シテ直稅五百フランクヲ納ル者其撰ニ充ツ
撰舉人トナリ及ヒ充撰人トナルノ權ハ常ニ其
人ノ家資ニヨルカ故ニ衆皆此金額ヲ減シテ其
人德（年齡才能及ヒ行狀ヲ加ヘンヿヲ欲セリ）實ニ千八百
四十八年二月二十四日ノ革命ハ撰舉法ヲ改ヽ
ルノ名ヲ以テ起レリ
第七「アッサンブレーコンスチューアント」（建國法ヲ規定スル集會）
ニテ投票シタル千八百四十八年十一月四日ノ
建國法ハ全國一般ノ投票ヲ以テ共和政府ヲ起
シ行法權ヲ大統領ニ托シ制法權ヲ大統領ト議
院トニ托セリ法ヲ創立スルノ權ハ大統領ト議
院トニアリ議院ハ法ヲ論シ又ヒ投票ス大統領
ハ定限中ニ之ヲ頒布スルヿヲ任セリ
大統領及ヒ議院ノ員ハ全國ノ投票ヲ以テ撰ヒ
大統領ハ四年ヲ以テ滿任ト定メ代人ハ三年ト
定メタリ
千八百四十八年十二月十日ルヰ＋ナポレオン
ボナパルト大統領ニ撰舉セラレ建國法ヲ忠實
ニ遵奉スル事ヲ盟約セリ
千八百五十一年十二月二日大統領ハ議院ヲ解

キテ全國ノ投票ヲ起セリ
千八百五十一年十二月廿日及ヒ廿一日全國ノ
投票ヲ起セリ是ハ十二月二日ノ布令書ニ定メ
タル基本ニ従テ建國法ヲ作ルニ要撃ナル権ヲ
「ルウヰーナポレオンボナパルト」ニ與ヘシメンカ
為メナリ

現今ノ建國法

現今ノ建國法ハ專ラ千八百五十二年正月十四
日ノ建國法ヲ以テ規定スルモノニシテ即チ千
八百五十一年二月廿日及ヒ廿一日ノ全國投票

ヲ以テ付與シタル権ヲ以テ大統領ノ作ル所ナ
リ此建國法ハ六統領ルヰーナポレオンボナパ
ルトヲ恵ミテ大統領ノ職ヲ十年ト定メタリ
此建國法ハ千八百五十二年十一月七日ノ「セナ
テュスコンシュルト」ヲ以テ大切ナル箇條ヲ變換セ
リ是蓋シ大統領ヲ恵ミ三世ナポレオンノ名ヲ
以テ世襲帝國ヲ回復シタレバナリ此「セナテュス
コンシュルト」ハ十一月廿一日及ヒ廿二日國情ヲ
以テ確定セルモノナリ
其後屢々「セナテュスコンシュルト」ヲ以テ建國法ヲ

變換セリ其中尤モ重立タルモノハ千八百六十九年九月八日ノ「セナテュスコンシュルト」ナリ

現今ノ建國法ノ箇條ヲ拾聚シテ茲ニ畧説ス此法ハ即千千八百五十二年ノ建國法ニ從ヘルモノニシテ載ル所ノ事左ノ如シ

第一佛蘭西人ノ公法政府ト民トノ關係ヲ制定スルノ法ノ基礎タル原則

第二政府ノ体裁諸官ノ組立及ヒ職掌

公法

千八百五十二年ノ建國法ノ第一ヶ條ハ千七百八十九年ニ布令シテ佛蘭西人ノ公法ノ基礎トナリタル大原則ヲ確定セリ

此建國法ニハ大原則ヲ含蓄スルカ如クナリト雖モ文面ニ記載セザルハ實ニ惜ムヘシ此建國法ノ布令ハ千七百八十九年ノ原則ヲ其儘保ツヿナク大切ナル个條ヲ減省シ欺ク所少ナカラサルカ故ニ文面ヲ以解ス可ラス

千七百九十一年ノ建国法及ヒ此建國法ノ巻首ニ付シテ此法ノ緒言トナシタル千七百八十九年ノ國人権利ノ布令書ニ依レハ千七百八十九

年ノ大原則ハ左ニ記スル所ノ件々ヲ佛蘭西人ノ公法トシテ記載シタリ

一民ノ同等ナル事

一人々ノ自由

一住所及ヒ所有ノ権ノ害スヘカラサル事

一宗旨ノ自由

一板刻ノ自由

一人民會合ノ権利

一請願ノ権利

右ノ件々ヲ固守スルノ方法トシテ猶左ノ件々ヲ掲ケタリ

一國ノ主権ナル事

一権ヲ分ツ事

一國ノ代人ニテ租税ヲ投票スル事

一政府ノ官員責ニ任スル事

一裁判ノ獨立ナル事及ヒ無賃ナル事

一柔順ナル國兵ヲ設クル事

佛蘭西人ノ公法ノ基礎タル此大原則ノミヲ記メ更ニ他ノ支派ニ渉ラス如何トナレハ種々ノ法ヲ以テ建国法ヲ擴充シタル件々ヲ精細ニ詳

大藏省

說スルハ此篇ノ主意ニアラサレバナリ

第二建國法

建國法ノ大旨トスル所ハ國ノ主權ヲ行フニ必遵守スヘキノ規則國ノ重立タル官府ノ組立及ヒ其官府ノ間ノ關係ナリ

國ノ主權ハ民ニアリテ國民（男子廿一歳ニ達シタルモノ）モノ此權ヲ行ヒ得ヘシ

諸官ハ民ノ主權ヲ行フ爲メノ器械ナリ故ニ建國法ヲ作ル所ノ地位ト建國法ヲ以テ立テタル所ノ地位トハ區別セサルヘカラス

建國法ヲ作ル所ノ地位ハ則チ民ナリ此權ヲ行フニ或ハ千七百八十九年及ヒ千八百四十八年ニ於ケル如ク代人ヲ出シ集會ヲ立テ或ハ千八百五十二年ニ於ケル如ク總代一人ヲ出シ大統領ヲ立テ或ハ自ラ投票シ以テ此權ヲ行フ

建國法ヲ以テ立テタル所ノ地位ハ即チ制法官及ヒ行法官ナリ此權ハ千七百八十九年以來常ニ分テリ

制法權

制法ノ權ハ帝王制法官及ヒ上院共ニ之ニ參與

ス帝王及ヒ制法官ハ法ヲ創立スルノ権ヲ有ス
制法官ハ法ヲ論シ及ヒ投票ス上院ハ其法ノ國
法ニ合フヤ否ヤヲ推究シ時宜ニ因テハ其布達
ヲ拒ムノ権アリ若シ法律中ニ改正スヘキ事ア
リト思ヘル時ハ其變スベキヿヲ書記シ既ニ代
人ニテ投票シタルモノヲ再議ニ掛ルヿヲ命シ
得可シ

帝王

千八百五十二年ノ建國法ニ據レハ法ヲ創立ス
ルノ権ハ帝ノミニ帰シタレトモ千八百六十九
年九月八日ノ「セナテュスコンシュルト」以来制法官
モ亦此権ヲ得タリ然レモ法又ヒ「セナテュスコン
シュルト」ヲ許可シ及ヒ頒布スルノ権ハ特リ帝ノ
ミニアリ

諸官省ニテ作リタル法案ハ先ツ帝ニ奏ス帝之
ヲ自ラ國議院ノ長官ニ渡ス或ハ其省ノ長官ヲ
以之ヲ渡サシムル事モ亦アリ

國議院ニ於テ此法案ヲ精細ニ點檢シ院ノ長官
ヨリ再ヒ帝ニ返奏ス返奏スル時院ノ長官ハ制
法官及ヒ上院ニ出テ法案ヲ討論スル為メノ辨

論者ノ名ヲ之レニ記シ置クヘシ

帝ハ制誥ヲ以テ法案ヲ制法官ニ出スヲ命シ且國議院ノ議員或ハ政府ノ他ノ官員ニ命シテ其省ノ長官及國議院ノ其課ノ議長ヲ輔ケテ以テ辨論セシム

制法官

制法官ハ各州ニ於テ命スル所ノ代人ヲ以テ立ツル所ノ者ナリ此代人ハ三萬五千ノ撰舉人毎ニ一ツノ代人ヲ撰舉シ猶殘ル所ノ人數一萬七千五百人以上ニ至レバ更ニ又一人ヲ增シ舉ク

ルヲ得ヘシ

諸州各人撰ノ分界ヲ定メ一區毎ニ一人ヲ舉ケテ以テ代人トナス代人ノ數ハ千八百六十七年十二月廿八日ノ制誥ニ從ヒ二百九十二人ヲ以テ定數トナス此制誥ハ五年毎ニ訂正スル人別調ニ從テ作ル所ノモノナリ

代人ヲ撰フハ全國ノ投票ヲ以テス

國民民權及ヒ政權ヲ得タルモノヲ云フ即チ年齡二十一歲ニシテ民權及ヒ政權ヲ受ケタル者ハ皆撰舉人タルヘシ然レトモ其姓名ヲ撰舉人名簿ニ記載スルト

六ヶ月間撰舉ノ里中ニ居住スル者ニ非サレハ
此権ヲ行フ能ハス
撰舉人名簿ハ里長之ヲ作ル一月一日ヨリ十日
迄ニ名簿ノ出入ヲ審訂シ爾後三月三十一日ヲ
待ッテ之ヲ閉ッ
新入及退去ヲ望ム者ハ審訂表ノ布令ノ時ヨリ
二十日ノ間ニ出願スヘシ
此願ハ地方ノ委員之ヲ檢査シテ其可否ヲ定ム
若シ上告ニ及フ時ハ治安裁判役之ヲ裁判ス三
月三十一日ノ後ニ至リ始テ國民ノ分限ヲ全フ

スル者ハ本年ノ名簿ニ入ルヲ得ス
年齡二十五歳ニノ法律ヲ以テ定メタル行狀ノ
缺闕モ又分限ノ不足モ無ク而ノ兼勤スヘカラ
サルノ職ニ居ラサル撰舉人ハ皆充撰人タルヲ
得ヘシ然レ𪜈仕進ヲ求ムル者ハ撰舉ヲ開クノ
前八日ニ盟式書ヲ調印シテ州廳ニ差出シ置ク
ヘシ
代人ノ職ハ俸ヲ受ルノ官ト兼ヌヘカラス
千八百六十九年九月八日ノセナ左スコンシ
ルトニ據レハ各省ノ長官ハ制法官及ヒ上院

ノ員トナルヲ得ベシ

代人ハ六年ヲ満任トナス

撰舉人ハ已カ属スル所ノ撰舉ノ區分中ノ代人ノミヲ投票ス故ニ一州ノ代人ヲ撰舉スルニ千八百四十八年ニ於テナス如ク州代人ノ名簿ヲ以テセズ

投票ハ各里ニ於テ為スト雖ヒ撰舉ノ便宜ニ従テハ州知事ノ命令書ヲ以テ一里ヲ數小區ニ分チ得ヘシ千八百四十八年ニ於テハ邑ノ首會ノ地ニ於テ投票セリ

人撰ノ組合ハ會合ノ前二十日ニ帝ノ制誥ヲ以テ召集ムヘシ各組合ノ事務局ハ主長一人輔佐四人ナルヘシ撰舉ヲ開キテ投票ヲ受ルノ時間ハ二日間ニシテ初一日ハ朝八時ヨリ夕四時ニ至ル撰舉ヲ閉ツルノ後ハ所得ノ投票ヲ拾聚シテ其形狀ヲ榜示ス

各大區分ノ投票ハ州ノ首府ニ於テ之ヲ計筭ス州知事ハ州會ノ員三人ヲ命シテ其事ヲ治辨セシム委員三人ノ内主宰タルモノ其光景ヲ報知シ及ヒ充撰ノ代人ヲ布告ス撰舉ニ應スル者ハ

左ニ掲ル所ノ規則ヲ全フスルニ非サレハ初撰ニ充ルヲ得可カラス

第一投票ノ數全數ノ半ニ過ル事

第二名簿ニ記載セル撰擧人四分ノ一以上出頭ノ事

若シ撰擧ニ應スル人此両規ヲ全フセサレハ撰擧ノ光景ヲ報知シタル其日ヨリ第二ノ日曜日ヲ期シテ再撰ス此再撰ニ至テハ投票ノ人數ノ多少ヲ論セス又半數ヲ以テ準ト為サス只彼此比較シテ多數ノ者ヲ取ル若シ投票彼此同等ニ

ノ甲乙ナキ時ハ長年ノ者ヲ以テ代人ト為スヲ布令ス

代人ノ撰擧ノ可否ヲ定ムルハ制法官ナリ此事件ニ就テハ制法官ノ決定ヲ以テ最上ノモノトナス一人ノ代人各所ノ撰擧區分中ニ於テ一時ニ撰擧セラレタル時ハ撰擧ノ適當ヲ確定シタル時ヨリ十日ノ内ニ已レカ欲スル所ノ場所ヲ制法官ノ議長ニ報知スヘシ

事故アリテ代人ノ闕員アル時ハ人撰ノ組合ハ六ケ月中ニ會合セサルヘカス

帝ハ制法官ヲ起シ又延期シ及ヒ解散スル事ヲ
得ヘシ若シ解散シタル時ハ更ニ又起ス事必ス
六个月中ニ於テスヘシ
千八百六十六年七月十一日ノ「セナテュスコンシュ
ルト」以来常例ノ會合ノ期限ハ三个月ト限ラス
帝ノ制誥ヲ以テ其會ヲ散スルヲ命スル迄ハ連
綿引續クヘシ
制法官ノ事務ハ議長一人副議長四人書記六人
及ヒ庶務二人ニテ治辦ス
千八百五十二年ノ建國法ニ據レハ制法官ノ議
長及ヒ副議長ハ帝之ヲ命シ且ツ一年ノ職ナリ
千八百六十九年九月八日ノ「セナテュスコンシュルト」
ノ文面ニ據レハ議長副議長書記及ヒ庶務ハ都
テ制法官ニ於テ之ヲ命セリ
千八百六十九年ノ「セナテュスコンシュルト」ヲ以テ
制法官ノ部内ノ規則ハ自ラ作ル事ヲ任セリ
制法官ノ職員ヲ拈鬮シテ九局ニ分ツ此局ハ毎
月之ヲ改ム各局ノ議長及ヒ書記ハ投票ヲ以テ
之ヲ撰フ制法官ノ委員ハ各局ヨリ各一人ヲ命
シテ之ヲ立ツ故ニ委員ハ九人ナリ若シ重事ヲ

審訂スルニ當テハ更ニ又各一人ヲ增シテ十八人ノ委員ヲ立ルヲ決定シ得ヘシ

職

制法官ハ法案及ヒ租稅ニ付テ論シ及ヒ投票ス千八百六十九年九月八日ノ「セナテュスコンシュル」以來帝ト相互ニ法ヲ創立スルノ權ヲ此官ニ有ス

行法官ニテ創立スル法案モ制法官ニテ創立スル法案モ先ツ局中ニ於テ之ヲ審覈シ然ル後諸局ノ撰人ヲ以テ立ツル所ノ九人或ハ十八人ノ委員重子テ之ヲ審覈ス

委員ハ議長一人及ヒ書記一人ヲ命シ猶謁者一人ヲ撰ヒテ覈定シタル事務ヲ制法官ニテ說明スルヲ任ス此ノ說明ハ衆人ノ傍聞ヲ禁セス

千八百五十二年ノ建國法ニ從ヘハ制法官ハ法案ヲ變換シ其个條ヲ直ニ討論スルヲ得ズ必ス法案審覈ノ爲ニ任シタル委員ノ承諾及ヒ國議院ノ許可ヲ得テ然ル後之ヲ討論スルヲ得ヘシ」

千八百六十六年七月十八日ノ「セナテュスコンシュルトシ」ニ基キテ制法官ハ委員或ハ國議院ニテ承

諾セサル変換ノ个條ヲ保存スルノ権ヲ得タリ
此ノ保存ノ権ハ其変換ス可キ个條ヲ更ニ委員
及ヒ國議院ノ再評ニ掛ケ得可キノミニシテ若
シ委員猶新規ノ个條ヲ善トセズ國議院モ従前
ノ个條ヲ保ツ時ハ新條ヲ捨テ舊條ニ因テ討論
ス
千八百六十九年九月八日ノ「セナテュスコンシュル
ト」ノ第八條ニ據レハ法案審覈ニ任シタル委員
ニ送ラズ又政府ニ通達セサル変換ノ个條ハ討
論シ得ヘカラズ

政府ト帝及長官委員トニ致セサル時ハ國議院ハ已
レノ意見ヲ述ヘ制法官ハ之ヲ裁ス
制法官ノ員ハ政府ニ對シ口演スルノ権ヲ得タ
リ
法案ヲ討論スルニ國ノ代人ト政府ノ辨論者ト
ハ反体シテ論ス政府ノ辨論者ハ省ノ長官國議
院ノ課長及ヒ國議院ノ評議役ナリ
委員ノ説明ノ後先ツ法ノ全体ニ就キ討論ス其
後个條ヲ討論ス投票ハ先ツ个條毎ニ投票シテ
然ル後法案ノ全体ニ就キテ投票ス

上院

上院ノ員ハ左ノ如シ

第一「カルデナール」官僧「マレシヤル」陸軍提督アミラル海軍提督

第二帝ノ意ニ上院ノ員位ニ登庸シテ適當ナリト思ヘル國民齡ニ二十一歳ニシテ民權及ヒ政權ヲ受ケタル者尤百五十名ヲ過ク可カラス

第三佛国ノ貴族年齡十八歳ニ至レル者然レモ帝ノ許シヲ得ルニ非サレハ此員タルヲ得ス

上院ノ員ハ廢棄ス可カラサル終身ノ職ナリ年給三萬フランクヲ受ク

上院ノ議長及ヒ副議長ハ院ノ員中ニ撰ヒテ帝之ヲ命ス在職一年ナリ

帝ハ上院ヲ召集メテ會合セシメ及ヒ其會合ノ期限ヲ定ムルノ權アリ散會ノ後臨時ニ會合ヲ許スノ權モ亦帝ニアリ然レモ上院ヲ散解スルノ權ハ有セズ

上院ノ會合ハ制法官ノ會合ノ如ク傍聞ヲ許ササリシカ千八百六十九年九月八日ノ「セナテュスコンシュルト」以來上院ノ會合モ亦傍聞ヲ許セリ

大藏省

然レモ機密ノ會合ヲ爲サント欲セハ上院ノ員五人ノ願ヲ以テ足レリトス

千八百六十九年九月八日ノ「セナテュスコンシュル」ト以来上院モ亦制法官ノ如ク其内部ノ規則ヲ自ラ制ス

上院ノ員ヲ拈闄シテ五局ニ分ツ此局ハ法案ヲ審覈ス若シ委員ヲ命スルヲ要スル時ハ其員ヲ撰ブ

職

上院ハ建国法及ヒ諸般ノ自由ノ権ノ守護人ナリ凡ソ法ハ上院ヲ經スシテ頒布スルモノ有ラス

上院ノ重立タル職ヲ畧説スル事左ノ如シ

第一建国法教法風化宗旨ノ自由人々ノ自由法律ニ對シ国民同等ナル事所有ノ権ノ破ル可カラサル事役人ノ廃ス可カラサルノ規則此數者ヲ損害スル法則ハ之ヲ頒布スルヲ拒ミ及ヒ地方ノ保護ヲ害スル法則ヲ頒布スルヲ拒ミ得可シ

第二法律ニ変スヘキ事アリト思フ時ハ其事ヲ

示シテ更ニ制法官ヘ返送シテ討論スルヿヲ命シ得ヘシ上院ハ常ニ法ノ頒布ニ反体シ得ヘシ上院ニテ拒ミタル法ハ同次ノ集會ノ制法官ニテハ再ヒ辨理スルヲ得ス

制法官ニテ投票シタル法ヲ拒ムノ権利ハ千八百六十七年三月十四日及ヒ千八百六十九年九月八日ノ「セナテュスコンシュルト」ヲ以テ上院ニ附與セリ

第三上院ハセナテュスコンシュルトヲ以テ左ノ件々ヲ制定ス

屬国及ヒアルゼリー国ノ法則

建国法ニ未タ掲載セサレヒ建国法ヲ整齊スルニ關ク可カラサルノ事件

建国法ノ个條ノ意味ノ譯解種々ナル時起原ノ意味ヲ決定スル事

此三事ニ當テハ上院ハ實ニ立法者ナリ上院ハ又帝ト相共ニ「セナテュスコンシュルト」ノ草案ヲ創立スルノ権ヲ有ス而ソ「セナテュスコンシュルト」ハ帝ノ許可ヲ受ケ帝ヨリ之ヲ頒布スヘシ

第四建国法ニ違フ所アリト政府或ハ人民ヨリ

上院ヘ報告シタル諸文書ヲ取捨スルハ此院ノ
権ニ在リ
第五上院ハ制法事務ニ於テモ國ノ大益トナル
道理ヲ記載シテ帝ニ奏シテ政府ノ法ヲ創立
スルノ権ヲ催カシ得ヘシ
第六上院ハ建国法ヲ変スル事ヲ企ルヲ得ヘシ
其企ヲ行法官ニ於テ承諾シタル時ハ「セナテュス
コンシュルト」ヲ以テ之ヲ定ムヘシ
第七上院ハ民ヨリ上院ニ出シタル願書ヲ投票
シテ以テ定ム仮令此願書將来ヲ前慮スルノ願

ナルモ捨置ク可キ事件ナルモ審訂ノ局ニ納ム
可キ事件ナルモ管スル所ノ省ノ長官ニ送ル可
キ事件ナルモ都テ投票ヲ以テ定ム
第八上院ハ諸長官ノ咎メヲ発言スルノ任アリ
長官ヲ裁判スルノ要用ナル時ハ之レヲ臨時裁
判所ニ送ルヘシ
千八百六十九年九月八日ノ「セナテュスコンシュル
ト」ニ従テ上院モ亦制法官ノ如ク政府ニ對シ口
演シ得ヘシ

行法権

行法官ノ本体トスル所ハ法ヲ頒布スルト施行スルトニアリ此権ハ帝一人ニ属シ帝自ラ之ヲ行ヒ或ハ代人ヲ以テ之ヲ行フ行法権ハ國事政令裁判ヲ含蓄ス

国事ノ本旨トスル所ハ外国交際ノ法及ヒ建国法ヲ實事ニ行フニアリ政令ノ本旨トスル所ハ建国法ノ原則ヲ擴充スル為ニ一般ノ利益ヲ量リテ設ル所ノ法ヲ實事ニ當ルニアリ裁判ノ本旨ハ出ス所ノ法令ニ逆フ者アル時ハ之ニ法ヲ當ルニアリ裁判ハ法ヲ行フニ障碍アレハ其障碍ヲ解ク者ナレハ行法ノ為ニ備フル所ノ一ノ方畧ナリ

裁判ヲ三ツニ分ツ即チ國事裁判政令裁判及ヒ民事裁判ナリ

建国法ニ就キテノ論ヲ擴充スルニハ臨時裁判所ノ組立及職ヲ畧説セザルヲ得ス故ニ左ニ掲載ス臨時裁判所ノ職ハ即チ國事裁判所ノ職ヲ奉スル者ナリ

臨時裁判所

臨時裁判所ハ千八百五十二年ノ建国法ヲ以テ

設立シタリ

組立

千八百五十二年七月十日ノ「セナテュスコンシュル」ト」ニ據レハ臨時裁判所ノ組立ハ左ノ如シ

第一定答局及裁判局ナリ（両局ノ員、駁議裁判所ノ議員ナリ）

第二「ジュリー」ナリ（ジュリーハ州會ノ員中ニ撰ヒタル現職ノ者三十六名準備ノ者四名ナリ）

定答局ハ罪人ヲ罪スヘキ事アリテ裁判局ニ送ルヘキヤ否ヤヲ定ム裁判局ハジュリーノ決定ニ従テ法ノ當テ方ヲ定ムジュリーハ罰スヘキカ罰スヘカラサルカノ裁判職ナリ

職

臨時裁判所ニ適當スル事件ハ千八百五十二年ノ建国法ノ第五十四條及ヒ千八百五十八年六月四日ノ「セナテュスコンシュルト」ニ規定セリ此適當スル事件ハ人ノ身分及ヒ犯ス所ノ罪ノ形状ニ因リテ定ムル所ナリ

臨時裁判所ニ適當スル事件左ノ如シ

第一帝家ノ貴族武官ノ大臣レジョンドニュールノ大十字章飾ヲ帯ル人公使上院ノ員国議院ノ員

是等ノ犯セル重罪及ヒ輕罪
第二罪人ノ身分位階ヲ論セズ帝或ハ国ノ内外
ノ安寧ヲ害スル所ノ重罪及謀害
第一ニ掲クルモノハ臨時裁判所ニアラサレハ
適當セス第二ニ掲ルモノハ臨時裁判所ニ送リ
來ラサレハ通常ノ裁判所ニ適當スベシ
臨時裁判所ハ帝ノ制誥ヲ以テ設ク可シ定答局
ヲ預メ起シ置キ此局ニ於テ答ム可キ事件アリ
ト思フ時ハ更ニ帝ノ制誥ヲ出シテ裁判局ヲ起
シ且ツ此局ノ會スヘキ場所及ヒ議論ヲ始ムル

日ヲ定ムベシ爾後十日内ニ「ジュリー」ヲ立ツ「ジュリ
ー」ヲ組立ルニハ上等裁判所ノ議長カ或ハ若シ
上等裁判所ナキ州ハ其州ノ司法ノ區中ノ重立
タル初告裁判所ノ議長公廷ニ於テ州會ノ員中
ニ一員ヲ指闡シテ之ヲ取ル此ノ如クシテ州會
毎ニ一人ヲ取ル時ハ名簿ニ記載スル所八十八
人ヲ得可シ（セーン州ハ州會ナキカ故ニ州ノ委員之レニ代リテ以テ此職ヲ為ス）
國代（聽訟事務ヲ審察スル職）及ヒ罪人ニモ省捨ノ権アリト
雖モジュリーハ現職ノ者三十六名準備ノ者四名
ヲ下ル可ラズ

罪人ヲ罰スヘキ事情及ヒ恕スヘキ情状ノ布令ハ二十以上ノ同意ノ投票數ニ於テ定ムヘシ是ハ刑法裁判所ニ於テ通例「ジュリー」ノ為スヘキト大ニ懸隔セリ實ニ刑法裁判所ニ於テハ過半ノ投票ヲ望ムヲ常トセリ千八百四十八年ノ建國法ニテハ罰スヘキ事ノ布令ハ同意ノ投票數三分ノ二ヲ望メリ

官員ヲ輕罪ノ為メニ裁判スル時ハ「ジュリー」ヲ立テズ

臨時裁判所ノ決定ハ告訴スル所ナシ

政令ノ區別

政令ニハ規則アリ又規則ヲ守ラシムルノ威権アル官廳及ヒ其職務ヲ行フ為メニ此権ヲ活用スルノ方畧アリ因テ政令ヲ三部ニ分ツ

第一政法　第二政令事務ノ行フ官廳　第三政令事務ノ辨理方

政法ハ一般ノ利益ヲ目的トスルモノナレハ満足セシムベキ諸般ノ要務ニ從ヒ政法モ亦多端ナリ

此要務ハ濟用ヲ備具スルト風俗ヲ淳化スルト

ニアリ要務ヲ満足セシムルハ人々ノ富有ト国ノ静謐トヲ謀ルニアリ猶其他慈恵ノ建設等ヲ起シテ以テ世態ヲシテ益淳美ナラシムルニアリ故ニ政法ハ左ノ件々ニ関係ス

経済　安寧　便利　教化　慈恵

政令事務ヲ司トル所ノ官廳ハ一般ノ利益トナル法律ヲ施行スルノ任ニ居リテ行法権ノ支派ナリ此官廳ノ職掌ヲ事務ノ模様ニ従ヒ執行評議及ヒ裁判ノ三種ニ分ツ即チ執行事務評議事務及ヒ裁判事務ナリ

官廳ノ地位ニ就キテ分テハ国廳州廳里廳即チ国政治州政治里政治ナリ

政令官署

篇ヲ三ツニ分チ国政治州政治里政治ヲ説クベシ

第一篇上

国政治

国廳ノ組立ハ帝諸省長官國議院及ヒ統計官ナリ（茲ニ制法官及ヒ上院ノ事ヲ掲ケズ如何トナレハ此両官ハ建国ノ大府ニシテ政令ノ官署ニアラザレバナリ）帝及ヒ諸省長官ハ専ラ執行事務ヲ任

ジ國議院及ヒ統計官ハ評議事務ト裁判事務ヲ
任ズ就中國議院ハ評議事務ノ官ナリ何ントナ
レハ國議院ノ意見ハ國君ノ許可ヲ要シテ自ラ
決定スルノ権ナケレハナリ

帝

帝ノ職掌

帝ノ職掌ハ千八百五十二年正月十四日ノ建国
法ヲ以テ制定シ同年十一月七日同十二月廿五
日ノセナテユスコンシュルトヲ以テ改正シタリ
此セナテュスコンシュルトハ共和ノ建国法ヲ再與

ノ帝國ニ契合セシメタルモノナリ
制法ノ権ハ帝ト制法官及上院ニ分有シ行法権
ハ帝ノミニ帰ス
制法ノ権ニ拘リテハ帝ハ法ヲ創立スルノ権ヲ
制法官ト相共ニ有ス然レモ許可スルト頒布ス
ルトノ権ハ帝ノミニ在リ
帝ハ又セナテュスコンシュルトヲ創立スルノ権ヲ
上院ト相共ニ有ス然レモ許可スルト頒布スル
トノ権ハ亦帝ノミニアリ
行法ノ権ニ拘リテ帝ノ有スル所ノ権ハ建國法

第六條ニ記載スル如ク左ノ件々ナリ

海陸軍ヲ指揮スル事　兵事ヲ起スヽ事　平和條約　同盟條約　貿易條約　官職ヲ任除スル事　法ヲ施行スルニ必用ナル規則及ヒ制誥ヲ作ル事

千八百五十二年十二月廿五日ノセナテュスコンシュルトヲ以テ右ノ件々ノ外ニ猶左ノ諸件ヲ帝ニ帰セリ

恩惠ヲ為ス事　大赦ヲ行フ事　公業ヲ許ス事

此セナテュスコンシュルトヲ以テ貿易條約中ノ関税則ヲ改正スルノ権ヲ帝ニ許セリ然ルニ是ハ諸税ハ法ヲ以テ定ムヘキノ原則ニ障碍アリタリ

千八百六十九年九月八日ノセナテュスコンシュルトノ第十八个條ニ向後各国條約ヲ以テ輸出入税則及ヒ郵便税則ヲ改正シタル時ハ法ヲ以テスルニ非サレハ行フ可ラサル事ヲ載タリ

行法権ノ諸文書ノ區別

行法権ヲ施ス為メニ帝ヨリ出ス所ノ文書ヲ共

趣旨ニ從テ特権ノ文書ト政令ノ文書トニ區別ス

特権ノ文書ハ專ラ平和條約同盟條約貿易條約ヲ含蓄ス是等ハ國議院ニ告訴ス可ラサルモノナリ

政令ノ文書ヲ一般ノ制誥ト特別ノ制誥トニ區別ス

一般ノ制誥ハ法律ヲ擴充スル者ナルカ故ニ法律ノ如ク一般ニ遵奉ス可キ者ナリ特別ノ制誥ハ即チ一箇ノ人或ハ一箇ノ事件ニ當ルモノナリ

一般ノ制誥ヲ二種ニ分ツ

第一建國法ノ第六條ニ基キ各省長官ノ奏問ニ依リ直チニスルトモ國議院ノ議論ノ後ニスルトモ帝ノ欲スル式ニ從ヒ特権ヲ以テ制スル所ノ擅断ノ制誥

第二法ノ代リトナル可キモノニノ國議院ノ議ニ必ラス掛クヘキ制誥之ヲ名ツケテ代法制誥ト云裁判ノ費用及ヒ裁判所取締ノ爲ニ訴訟法ノ千四十二个條ヲ施行シ貿易裁判所ノ設立及

ヒ組立ノ為メニ商法ノ六百十五條及ヒ六百十七條ヲ施行スルニ此代法制誥ヲ以テセリ

此制誥ノ二種ハ互ヒニ同シカラズ第一ニ式ニ於テ違アリ擅斷ノ制誥ハ國議院ノ議ヲ受ルヿハ必スシモ之ヲ要セズ代法制誥ハ必ス之ヲ要セリ第二ニ國主ニ托セル権ノ制限ニ違ヒアリ實ニ擅斷ノ制誥ニ違背スル者ハ刑法ノ四百七十一个條ノ第十五款ニ定メタル一般ノ罰ノ外他ナシ此罰ハ政令官署ニ於テ制シタル規則ヲ破リタル者ヲ一フランクヨリ五フランク迄ノ罰金ヲ以テ懲戒スルナリ代法制誥ハ國主ニ於テ別ニ一箇ノ罰ヲ設ケ之ヲ以テ懲戒ス此時ニ至リテハ國主ハ國主ニ権ヲ與ヘタル立法者ニ代ルモノナリ

特別ノ制誥モ亦左ニ分ツ

第一長官ノ執奏ニ依テ作ル擅斷ノ制誥譬ヘハ婚姻ノ離別ヲ許シ恩祿ヲ與ヘルノ類及ヒ官職ヲ任除スルノ辞令

第二國議院ノ協議ヲ以テ作ル所ノ代法制誥譬ヘバ宗旨ノ社ヲ許ス事礦山ノ請負ヲ許ス事沼

地ヲ乾カス事公用ノ為ニ人ノ所有ヲ奪フニ至ル ノ大工業ヲ起スヲ布令スル事會所開キヲ許ス事生命請負ノ如キ會社等ヲ許ス事

政令文書ヲ亦執行事務ノ制誥ト聽訟事務ノ制誥トニ分ツ、

執行事務ノ制誥ハ政事ヲ行フ事ニ管シ聽訟事務ノ制誥ハ爭訟ノ事ニ管ス故ニ権利ヲ害サレタルノ道理ヲ以テ訟フル者アルニ非レハ此制誥ヲ出ス事ナシ執行事務ノ制誥ヲ出スニ於テハ帝ハ執政職ナリ聽訟事務ノ制誥ヲ出スニ於テハ帝ハ裁判職ナリ

帝ノ制誥ヲ破ルノ道

聽訟事務ノ制誥ハ國議院ニ於テ帝王ノ自ラ為シタル審判ナリ故ニ國議院ノ聽訟事務ノ職掌ノ條ヲ讀ムニ至リテ此制誥ヲ破ノ道ノ如何ヲル事ヲ知ル可シ

他ノ制誥ニ至テハ左ニ記スル所ノ个條ヲ以テ破リ得ベシ

第一國法ヲ犯セルノ道理ヲ以テ上院ニ助ケヲ請フ事

第二帝王ニ恩命ヲ願フ事
第三國議院ニ告訴スル事
恩命ヲ願フハ一箇ノ利益ヲ害サレタル事ニ拘ハル故ニ再ヒ明察ヲ垂レテ前令ヲ廃スルカ或ハ之ヲ変スルヿヲ請求スル十リ
告訴ハ権利ヲ犯サレタル事ニ拘ル故ニ敢テ執政ノ職掌ヲ咎ムルニ非ス其良心ノ不明ヲ咎メ制誥ヲ廃スルカ改ムルカヲ請フ十リ
廃スベキノ任ニ居ル職員ヲ廃スルカ地方ニ於テヲフィースミニステリエル代言人代書師等ノ如キ職ヲ増カ兵部ニ於テ登級ノ順ニ當リタル士官ヲ挙ルカノ制誥ハ恩命ヲ哀願スルノ外他ナシ蓋シ此數者ハ一箇ノ利益ヲ害スルノミニシテ権利ヲ破ルモノニアラサレハナリ然レモ若シ廃弃スヘカラサル裁判職ノ任ヲ解クカ法律ヲ以テ示令セサル事ヲ以テ士官ノ官ヲ奪フカ或ハ定マレル式ヲ踐マズシテ礦山ノ請願ヲ許スカ或ハ旁告人ノ権利ヲ輕ンシテ改名ヲ許スカノ制誥ハ國議院ニ告訴スル事ヲ得ベシ蓋シ此數者ハ皆法ヲ暗マシ所有ノ権ヲ破リ其他国民ニ盟約

シタル権ヲ破ル者ナリ

右ノ諸件ヲ畧説スレハ專制ノ権ヲ以テ作ルベキ特権ノ制詰及法ヲ代シ一般ノ規則トナルヘキ制詰ハ告訴アルヿナシ特権ノ制詰ハ権利ヲ破ルヿアル毎ニ告訴ヲ受クベシ

長官

長官ノ本分

諸省長官ハ執行事務ノ首宰ニシテ省ト名ツクル政治ノ大區ノ頭領ナリ而シテ二種ノ職掌アリ一ハ帝ノ制詰ニ連印スル事一ハ行法権ヨリ此官ニ附與シタル権アルカ故ニ自己一箇ノ権ヲ以テ事ヲ處置スル事

此二ツノ職アルカ故ニ長官ヲ名ツケテミニストルセクレテールデタール（長官兼國書記）ト呼フ（自主一箇）ノ権ヲ以テ事ヲ處ス故ニ長官ノ称アリ帝ノ副職トナリ制詰ニ連印ス故ニ国事書記ノ名アリ

長官ノ負數職掌及ヒ除任ハ國主ノ意ニ管スルナリ

アッサンブレーコンステテューアント（建國集會）ノ時ハ六省ヲ置ケリ即チ　司法　内務　理財　陸軍　海軍　外務ナリ爾後省ノ數変改セリ

千八百七十二年一月二日ノ制誥ヲ以テ十一省ヲ置ケリ即チ司法及教法　内務　外務　耕作及貿易　工業　理財　技藝　宮内　陸軍　海軍　教育ナリ

國議院ノ議長ハ國議院首坐長官ノ尊称ヲ受ク然レ𪜈無省無職ノ長官ナリ

長官トナル人ノ本色ハ國民ノ分限ヲ要ス（即チ満二十一歳ニシテ民権及ヒ政権ヲ受ケタルモノヲ云フナリ）

千八百五十二年ノ建國法ニ從ヘバ長官ノ職掌ハ代人ノ職掌ヲ兼ヌ可カラサリキ此兼ヌ可カラサル事ハ千七百九十一年第三年及ヒ第八年ノ建國法ニテ既ニ制定セリ然レ𪜈千八百十四年千八百三十年及ヒ千八百四十八年ノ建国法ニテハ此兼勤ヲ許セリ

千八百六十九年九月八日ノセナテュスコンシュルト以來長官ハ上院及ヒ制法官ノ員トナリ両院ニ入リテ発論スルヲ得タリ

回復（ブールボン家嫡流ノ回復）及ヒ七月ノ王國（ブールボン家庶流ノ承統）ノ頃ハ長官ハ皆國事書記タリ然レ𪜈又更ニ副國事書記ヲ置キ以テ記録ノ事ヲ任セリ

大藏省

千八百五十二年ニ於テハ國事長官ノ職ヲ置ケリ然レトモ諸省ノ長官ノ國事書記タルハ尚依然タリ而シテ國事長官ハ國ノ大政ヲ議スルノ專任ニシテ其他ハ帝家ノ慶弔ヲ司ルヿヲ兼タリ

十八百六十九年八月十四日ノ決定書ハ帝家ノ慶弔ヲ司ルノ職ヲ司法教法ノ長官ニ帰シタリ

千八百六十年十一月廿四日ノ決定書ニ從テ有職掌ノ長官ト無職掌ノ長官ヲ分別セリ有職掌ノ長官ハ已レノ省ノ政令事務ヲ差配ス無職掌ノ長官ハ國聽ノ大政及ヒ政令事務ヲ保護スル為ノニ任セリ千八百六十三年六月廿三日ノ制誥ヲ以テ無職掌ノ長官ヲ廃止シ其職ヲ國事長官ニ帰ス此國事長官ハ國議院ノ首座長官及ヒ國議院ノ負ト相共ニ國ノ大政及ヒ諸省長官ノ政令事務ヲ保護スルノ任ヲ受ケタリ

千八百六十七年一月十九日ノ制誥ヲ以テ奏表ヲ廃シ口述ヲ以テスルノ権ヲ諸省長官ニ許シ又帝ノ特別ノ委任ヲ受ケ國事長官國議院ノ長官及其員ト共ニ國聽ニ代リ上院及ヒ制法官ニ於テ諸事務及法案ニ付キ討論スルヲ許セリ

千八百六十九年九月八日ノ「セナテュスコンシュル
ト」以来諸省長官ハ前ニ云ヘル如ク上院及制法
官ノ負タルノミナラス両院ニ入リテ討論シ得
ベシ
諸省長官ハ帝ノ首坐ヲ以テ會合ヲ立テ評議シ
得ベシ
諸省長官ハ責ニ任スベシ而メ責ニ任スル事ハ
徒ニ其名アリテ其實少シ蓋シ諸省長官ニ對シ
テハ其所行ノ民事ニ管スルトモ其職掌ニ関係
アレハ民ノ之ヲ訟フルヲ許サヾレハナリ然レ

ドモ其職務ニ於テ落度アル時ハ上院ニ於テ之ヲ
咎メ時宜ニヨリテハ臨時裁判所ニ送ルヘシ然
ルニ臨時裁判所ハ帝ノ制誥ヲ以テスルニ非サ
レハ設ク可カラサルカ故ニ大凡常ニ國主ノ意
ニ関係セリ
諸省長官ハ難論ヲ受ケル時ハ両院ニ出テ自ラ
答ヘ及ヒ配下ノ事務ニ就テハ辨解ス可キカ故
ニ責ニ任スルノ体アリ

長官ノ職

長官ノ職ヲ二種ニ分ツ執行事務職ト聽訟事務

職トナリ此ノ如ク両種ニ分チテ利益アリ執行事務職ハ不適當或ハ権ヲ過越スルノ事アラサレハ國議院ニ訴フルヿヲ得ス聽訟事務職ハ裁判ノ僅ニ不當ナルヲ以テ訴フル事ヲ得ヘシ

執行事務職

長官ノ任スル所ハ法律及ヒ代法制諸其他行法権ヨリ出ス所ノ諸文書ノ施行ニ注意スルニアリ

長官ハ已レノ志旨ヲ述ルニハ決定書教令書及ヒ命令書ヲ以テス

決定書ハ争論ヲ起シタル雙方ノ求メ或ハ配下ノ属吏ノ上申ニ就キテ定メタル文書ニシテ頗ル有力ノ者ナリ

教令書ハ長官ヨリ配下ノ者ヲ訓導スル為メニ作リタル者ニシテ即示諭ノ書ナリ若シ其書職員ノ一列ニ拘ハル時ハ之ヲ廻章ト名ツク蓋シ教令書ハ一人ニ拘ハル事アリ又一列ニ拘ハル事アリ

命令書ハ定リタル一箇ノ事務ヲ一箇ノ員ニ命スルモノナリ

教令書ハ長官ヨリ達シタル其配下ノ職員ノミニ拘ハリテ他人ニ関係スルヿナキカ故ニ國議院ニ告訴スルヿナシ

長官ハ特別ノ決定書ヲ作リ得ルト雖モ一般ニ拘ハル決定書ヲ作リ得ルヤ否ヤ

デフール」及ヒ「バトビール」ノ如キ多々ノ記者皆否ト答ヘリ其意蓋シ規則ヲ立ツルノ権ハ専ラ國君ニ帰シ長官ハ則チ國君ニ侍坐スルモノニシテ君権ヲ行フニ及バザルカ故ニ法律文中ニモ之ヲ長官ニ帰スルヿナシトナリ他ノ記者ノ説ニハ長官ハ規則ヲ作ルノ権アリト云ヘリ蓋シ長官ノ職ハ法律及ヒ代法制誥ヲ施行スルニ注意スベキ者ナレハナリト然レハ法律或ハ代法制誥ノ條款中ニ規則ヲ立ルノ権ヲ長官ニ許セル時ハ此権ヲ有スト見ルベシ

千八百四十六年十一月十五日鉄道取締ニ付テ出セル代法制誥ヲ以テ一列ヲ組立ル車ノ數及ヒ一列毎ニ必携フベキ車ヲ止ムル器械ノ數及ヒ馳趨ノ方法等ヲ定ムルノ権ヲ工部ノ長官ニ任セリ

大藏省

千八百五十二年八月十日街上荷車ノ取締ニ付出セル代法制誥ヲ以テ釣橋ヲ車ノ通行スルヿニ付キ必要ナル方法ヲ立ルヿヲ工部ノ長官及ヒ内務ノ長官ニ許セリ

二説紛紜タリト雖モ刈ノ規則トナルベキ刈知事ノ決定書ヲ廃止シ或ハ許可スルノ権ハ長官ニ帰スルヿ判然タリ

破壊

政令ニ拘ハル事務ニ於テノ長官ノ決定書ヲ破壊スルハ左ノ二道ヲ以テス

引戻シヲ請求スル事即チ再考シテ決定書ヲ廃スル事ヲ長官ニ願ヒ立ツル事

國議院ニ上告スルヿ但シ不適當其任ニ非ズシテ辨理スルヲ不適當トスルヿナルカ或ハ権ヲ過越スルカニ非サレハ為ス能ハズ

聽訟事務職

長官ハ法律ヲ以テ已レニ帰シタル事件ヲ裁判スルノ権アリ其重立タルモノ左ノ如シ

賞典恩禄及ヒ政府ノ負債ノ辨用

官府ノ用品買上ノ約束

千八百三十八年四月廿七日ノ法ヲ以テ洪水ノ浸セル礦山ヲ乾カシタル費ヲ請負人ヨリ拂ハサル時礦山ノ請負ノ取戻シヲ言ヒ渡スヿ長官ニ裁判スル事ヲ許シアル事件ニ非ス亦法律文面ニモ記載セサル事件モ長官ハ裁判スベキヤ否ヤ

此問ヲ細論シテ更ニ又左ノ一疑問ヲ起セリ

通法ノ裁判ハ長官ニ拘ハルカ或ハ州知事ノ評議所ニ拘ハルカ

一ハ答フ通法ノ裁判ハ州知事ノ評議所ナリト其說第一ニ第八年雨月廿八日ノ法ノ緒論ヲ引ケリ此緒論ニ聽訟事務ハ此事務ノ為メニ設クル州知事ノ評議所ニ屬ストアリ第二ニ千八百十三年二月六日付ノ州知事ノ不適當ナル決定書ヲ廢棄シタル國議院ノ命令書ヲ引ケリ其緒論ニ州知事ハ政令事務ヲ司ルヲ任シタレハ純粹ノ政令事務ヲ辨理スヘシ聽訟事務ヲ辨理スル為メニハ更ニ州ノ評議所ヲ設ケタリト此決定書ハ其主旨ヲ示令スルタメノ法律ノ全輯ニ編入シテ頗ル有力ノモノナリ

一ハ各ノ通法ノ裁判ハ長官ニ帰スト此説ヲ主張スルニ第一ニ従前ノ例ヲ引タリ實ニ千七百九十一年四月廿七日五月廿五日ノ法ハ聽訟事務ヲ長官ノ會議ニ托セリ第三年ノ建國法ハ行法権タル主宰職ト事務ノ属スル省ノ長官ト共議シテ裁判スル事ト定メタリ第八年ノ建國法ヲ以テ國議院ヲ立テ諸省長官ヨリ剥奪スル所ノ権ハ唯其終審裁判ヲ為スノ権ノミナリ而メ終審裁判ノ権ハ國議院ニ帰シタリ第二ニ第八年雨月廿八日ノ法ノ个條ヲ引ケリ是ハ聽訟事務ヲ一般ニ州知事ノ評議所ニ帰スルヿナクシテ之レニ帰スル所ノ事務ヲ掲載シタリ今千八百十三年ノ命令書ヲ引タル文ノ証ヲ滅スル為メニ之ヲ辯論セン彼ノ命令書ハ裁判ノ類ニシテ比較シテ論スルモノナリ殊ニ引ク所ノ文ハ其緒論ヲ取リテ其个條ヲ取ラズ法律ノ全輯ニ編入シタルハ執行事務ト聽訟事務トノ區別ヲ判然ト示令スルノ主意ニシテ州知事評議所ノ裁判ヲ専任スルヿヲ云フノ主意ニアラス國議院ニ於テ同意裁決スル所ハ第二ノ論ナリ」

訴訟ノ方法

長官ニ告訴スルニハ証印紙ニ書シテ出スベシ

之レヲ裁判スルニハ局ノ上申ヲ以テスベシ

千八百六十四年十一月二日國議院ニ於テ作リタル制誥ニ訴訟ノ方法ノ規則ヲ載セタリ長官ハ裁断ヲ請フ者ニ入掌ノ日及ヒ省ニ書記シタル日ヲ記シタル受取書ヲ渡サシム聽訟事務ノ破壞ノ道ニ應ス可キ事件ハ格段ノ決定書ヲ以テ決ス可シ

長官ノ決定書ヲ雙方ニ達スルニハ政令事務ノ順序ニ從フ

長官ニ屬シタル官署ノ決定ノ上告ニ付テ決定スル時ハ省ニ上告ヲ受タル日ヨリ四个月間ニ裁決スヘシ若シ此定限後ニ至リ猶未タ裁決セサル時ハ訴訟ヲ弃捐シタルト見認テ国議院ニ上告シ得ヘシ

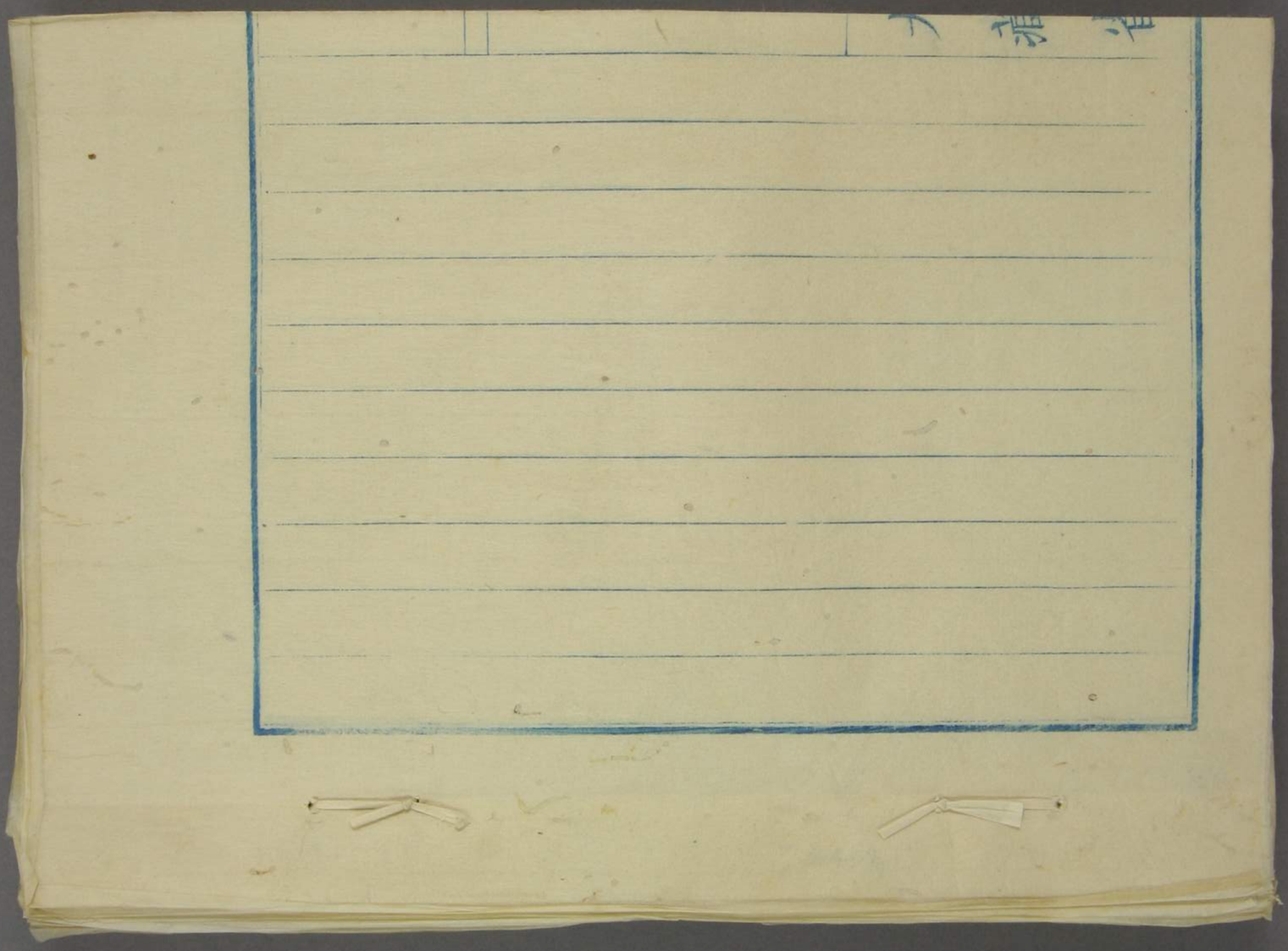
長官ノ決定ヲ破ル ノ道ハ左ノ如シ

抗傳（呼出シニ應セサル）スル事

旁告人ヨリ逆フ事

國議院ニ上告スル事

大藏省

國議院ニ上告スルハ決定ノ布告ヨリ三ヶ月
間ニ爲スベシ
長官ノ決定ハ常ニ國議院ニ上告スル事アリ
長官ノ裁判ハ終審裁判ニ非ス其裁決初告ナ
ルモ州知事或ハ長官配下ノ官署ニ於テ爲セ
ル決定ノ上告ナルモ都テ終審裁判ヲ爲スヿ
ナシ

大藏省